

辻 彰洋：米国における珪藻教育－ Iowa Lakeside Laboratory（アイオ ワ臨湖実験所）での夏期講習－

欧米ではサマーコースは学生実習（フィールドワーク）の場として重要な役割を占めているが、私の受講したIowa Lakeside Laboratory（アイオワ臨湖実験所：ILL）の珪藻の生態・分類コース（Ecology and Systematics of Diatoms）もその一つである。

ILLサマーコースの案内

コースは4週間で、参加者の多くは敷地内の宿舎（多くは二人部屋）に住み、三食を共にする。教官は2名、生徒は10名の小所帯である。私の参加した年は、Eugene F. Stoermer教授が担当教官として、Matt L. Julius博士がアシスタントを勤めていた。このコースは2010年で48回目になったが、当初は、米国の珪藻図鑑で有名なCharles Reimer博士が長らく講師を務めていた。その後、Stoermer博士が後任となったが、最近では短期間で講師が変わっているようである。

ILLは近くの町まで車で30分ぐらいかかるところにあり、平日は教官も含め、ほとんどの参加者は、ILLの敷地内で1日を過ごす。週末も、近くから参加しているメンバー以外はクラス単位で行動し、町に食事に行ったり映画を見に行ったりした。

珪藻のクラスでは、教官がミニバンを運転して、様々な水域や地層に小旅行に出かけて試料を採集する。丸1日の小旅行になるときは、ランチボックスを作ってもらい、まるでピクニックのようであった。私には甘すぎる大きなホールケーキも今となっては良い思い出。採集品は全て（100サンプル以上）を参加者が分担して酸処理し、全員分のスライドセットを作成する。課題は、そのスライドセットの中から100種以上を撮影し、データベースを作成する事であったが、私のように自分の研究テーマのサンプルを持ち込んで、教官と議論をしながら研究を進めている研究者の卵も多いた。

アメリカの珪藻研究者は、ほぼ全員がこのILLの卒業生であるが、アメリカ以外にもアジア地域を中心として、第一線で活躍している研究者の多くが、ここで珪藻を学んでいる。モンゴルの女性研究者であるSoninkhishig博士も私のクラスメイトであった。近年も、モンゴルやタイなどの多くのアジア諸国の若手研究者がこのILLの珪藻のクラスや統計処理のクラスに参加している。私は、当時研究をしていた琵琶湖の小形中心目珪藻のSEM写真を多く持ち込み、Stoermer教授

らと色々な議論を重ねさせて頂いた。その時の議論が元で「琵琶湖の中心目珪藻」をまとめることが出来た。

このコースでは、様々なレベルの参加者が助け合って同定を行う。それぞれの専門としている珪藻グループもあるので、それは賑やかであり、様々な議論を通して、珪藻のモノグラフの読み方や論文の読み方を学んでいく。そうこうしているうちに4週間後には学部3年生の生徒が一人前（弱？）に珪藻を同定できるようになる。日本の研究室ではなかなか現生から化石まで、珪藻全体にわたってこのような技能や知識を伝えるのは難しくなっているように感じる。

ILLのクラスの中で、珪藻のクラスは同定結果を入れたデータベースの提出が課題であったが、フィールドで自然の草花の同定試験が行われるクラスもあり、そのクラスの生徒は夕食を食べながら英単語のように表に花の写真、裏に学名が書かれたカードをくりながら必死になって名前を覚えていた。また、最終レポートのために徹夜している学生も多く見られた。

今回のシンポジウムの中で、日本でこのようなクラスを持つことの可能性について議論があった。日本の教育・研究環境を考えたとき、一人の研究者が4週間もの間つきっきりで、一つのクラスの面倒を見ることは、難しいように思える。複数の大学・研究機関が協力してオムニバスで開講することが現実的な方法かと思う。私が現職に就いてから、今まで珪藻を研究していなかった研究室の学生から珪藻研究を始めたいという相談を受けることが増えた。動機は単純な興味のこともあれば、水生動物の餌資源として珪藻を勉強したいという事もあった。また、環境アセスメントの面からも珪藻のパラタクソノミスト教育が求められるようになってきている。



湖上ボート採集の風景

今回、このILLの珪藻クラスのことを思い返してみても、私の珪藻分類研究のスタートとして、このクラスから受けた影響は多大であると再認識した。フィールドワークが重視されるようになった日本でも、これからはこのようなクラスが必要とされていくのではないかと感じている。

辻 彰洋：〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館・植物研究部

Akihiro Tuji: Department of Botany, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan